

### 編輯室の内外

大正十五年も、餘す所三十晝夜にして暮れむとす、財界不況の折柄、歳暮の難關に惱むである人もあるが、操觚の僧、歳が暮れやうと明けやうと一向無關心である、歳暮の難關に苦しむのは儲けむとするの惱みか、惱める人を眺めて、其の苦勞を免るゝ代りに所謂貧者としての生活に日を送るの得策に非ざるかを思ふ、人生も考へやうである。

去らむとする一歳を回想するとき、随分編輯に苦勞したが、諸彦の期待に副ひ得なかつたこと殊に誤字誤植のあつたことを恐縮する、併しながら年初に計畫したことの大半を爲し遂げ得たことは、儲けむとする人の味ひ能はざる快味にして、所謂貧者と

しての快哉を叫ぶ。

更に吾儕をして意を強からしむるものは誌上を通じて主張したことが實現され、各所に道路改良工事の竣功を觀、随分永い間の問題であつた京濱國道も既に開通し、阪神國道も山縣知事の希望通り年内に供用を開始するの報に接し、此くして我國道路が改良の歩一歩を進めつゝあることは、何と言つても痛快に堪へない。

いま歳末號に筆を擱くに方つて、喜悅の情禁じ難く、貧者は貧者ながらの祝杯を擧ぐ、固より山海の珍味在るにあらざれど、一杯の酒一箸の肴以て我が心を陶然たらしむるに足る、其の満足王者富者の夫れと異なる所がない、貧者は以て悲しむに足らずである。

過ぎ來し方を追想しうた、感慨無量、今

や同業に優るとも劣らざる成功裡に第八卷を編輯し終り、痛快籌ふるに物なし、獨り我が腕を撫し、此腕を頼りに、更に筆硯を新たにして讀者各位に見へむことを期す。終に讀者各位が幸福裡に越年されむことを祈る。

(路政僧)

本號定價 五拾錢  
一ヶ年分 金六圓

東京市麴町區大手町一丁目内務省  
發行所 社団法人 道路改良會  
發行兼 編輯者 上山 陸 造  
東京市小石川區諏訪町五十六  
印刷所 常磐印刷所  
印刷者 堀江 關 武